

[研究区分： 科研費獲得支援]

研究テーマ： ヴィクトリア朝期イギリスの写真と文学文化の関係に関する研究	
研究代表者： 人間文化学部 国際文化学科 准教授・吉本 和弘	連絡先： yosimoto@pu-hiroshima.ac.jp
共同研究者：	
【研究概要】 写真技術の発明と写真機（カメラ）の普及は、ヴィクトリア朝期イギリスにおいて絵画等、視覚芸術の分野にとどまらず言語芸術にも大きな影響を与えた。本研究ではアマチュアカメラマンとして知られた児童文学者ルイス・キャロルと、その同時代の写真家キャメロンやレイランダーらのプロ写真家、さらに労働者階級女性の写真を収集したマンビーの写真コレクションなどを資料として研究し、写真術が芸術文化に与えた影響について総合的に考察しようとしている。今回、多くの資料を所蔵しているアメリカのニューヨークと近郊都市の計5つの施設を訪問調査した。	

【研究内容・成果】

イギリスのヴィクトリア朝期の児童文学作家でありアマチュア写真家としても知られるチャールズ・ラトウィッジ・ドジソン（ルイス・キャロル）の撮影した写真の原本のうちの多くがアメリカに渡っているが、それらを所蔵する施設のうち、メトロポリタン美術館（ニューヨーク、9月28日）、ニューヨーク大学図書館 False Library（ニューヨーク、10月1日）、モーガン図書館（ニューヨーク、10月2日）、プリンストン大学図書館 Costen Collection（プリンストン、10月2、3日）ローゼンバック博物館（フィラデルフィア、10月4、5日）をそれぞれ訪問し、各図書館が所蔵するヴィクトリア朝期の写真の現物や書籍用のイラストレーションの原本、研究対象である書籍の初期の版、挿し絵の手書き原本等の貴重な資料を閲覧し調査した。

多くの資料の現物を見る事ができた上に、許される限りそれらの資料のデジタル写真を撮影できた事は、テーマとしているヴィクトリア朝期の写真と文化に関する研究にとって大変有益であった。今後執筆予定の論文の中でその成果を発表してゆきたいと考えている。

滞在期間中にニューヨーク大学図書館で行われた北米ルイス・キャロル協会の研究大会（9月29日： ニューヨーク大学ワシントン・スクエア・キャンパス）に参加し、アメリカの研究者と情報交換を行なった。



メトロポリタン美術館



モーガン図書館



ニューヨーク大学図書館



プリンストン大学図書館



プリンストン大学コステン児童文学図書館



ローゼンバック図書館



[研究区分： 科研費獲得支援]

北米ルイス・キャロル協会秋期大会に参加し、著名なキャロル研究者に初めて合う事が出来た。ニューヨーク大学エドワード・ギリアーノ教授、モートン・コーヘン教授、北米ルイス・キャロル協会の顧問委員のオーガスト・イムホルツ氏ら多くの学会員と情報交換をすることが出来た。

メトロポリタン美術館では、ルイス・キャロルの有名な写真(Beggar Girl など)が多く保管されているが、今回はそれに加えてジュリア・マーガレット・キャメロンの写真を多く見る事ができた。中でも桂冠詩人アルフレッド・テニソンの *Idylls of the King and Other Poems*, 1874 (挿し絵の代わりに写真を使った珍しい詩集) を見る事が出来たのは収穫だった。他にもグスタフ・レイランダーの多くの写真を見る事が出来た。(約 160 枚の記録写真を撮影)

モーガン図書館には、キャロルの多くの写真の他、キャロルの作品のイラストレーションの下書きが数多く所蔵されており、これらを手にとって見る事が出来た。また、日本で出版されたキャロル作品の初期の翻訳本なども見る事が出来た。キャロルの自筆の手紙も多く見る事が出来た。デジタル写真での撮影も許されたので、多くを撮影させて頂いた。(約 400 枚の記録写真を撮影)

ニューヨーク大学の False Library にはヴィクトリア朝期の写真に関連する大量の資料が所蔵されているが、今回はキャロルの写真のうち特に Xie Kitchen を撮影したものについて閲覧させてもらい、これらを写真撮影させて頂いた。これまで知らなかった写真も見ることが出来て多くの発見があった。(約 160 枚の記録写真を撮影)

プリンストン大学(プリンストン)には、ルイス・キャロルが自ら編纂した彼自身の写真アルバムが所蔵されているので、これを是非見せて欲しいと思ったが、これはあまりにも貴重な資料で門外不出とされていて、結局閲覧を許されなかった。この資料を忠実に再現したレプリカのみでの閲覧となった。また同大学のコステン・コレクションには、英語圏において出版された児童文学の貴重な書籍のコレクションがあり、キャロルのものと、エドワード・リア、ラドヤード・キプリングらの初版本など貴重な本を幾つか見る事が出来た。(約 300 枚の記録写真を撮影)

更に移動してローゼンバック図書館(フィラデルフィア)に赴いた。ここにはルイス・キャロルが撮影した少女の写真のうち特に注目される作品が多く所蔵されている。今回現物を見せて頂き、ガラスに印画して更に筆によって彩色されたこれらの作品を直接見る事が出来たのは感激であった。書物の中で見たものよりはるかに鮮やかで芸術性の高いものである事を改めて知る事が出来た。これについては撮影を許されなかったが、他の白黒写真については多くを撮影させて頂いた。(約 800 枚の記録写真を撮影)

今回、テーマとしている研究テーマであるヴィクトリア朝期の写真を数多く実際に見る事が出来、大量のデジタル画像を撮影する事も出来たので、これらの資料を整理研究して、今後論文の形で発表してゆく予定である。 <撮影した資料の例>



John Tenniel による Alice in Wonderland の挿し絵下書き、キャロル撮影の写真 (Xie Kitchen, Liddell sisters)



(Alice Liddell,



個人蔵の写真アルバム、



テニソンの詩集、



キャロル撮影の中世風写真)

[研究区分： 科研費獲得支援]
